

## 研究者名簿

研究分担者	丸川 征四郎	医療法人医誠会 医誠会病院 院長補佐
研究協力者	高木 慶子	上智大学グリーンケア研究所 教授
	長谷 敦子	長崎大学病院救命救急センター 准教授
	畑中 哲生	救急救命九州研修所 教授

## 心肺蘇生者等の救助者に対する「こころのケア」に関わる研究

丸川征四郎<sup>1)</sup>、高木慶子<sup>2)</sup>、長谷敦子<sup>3)</sup>、畑中哲生<sup>4)</sup>

医療法人医誠会 医誠会病院<sup>1)</sup>、上智大学グリーンケア研究所<sup>2)</sup>、長崎大学病院救命救急センター<sup>3)</sup>、救急救命九州研修所<sup>4)</sup>

**研究要旨：** 心肺蘇生等の現場で応急手当に関わった市民の「こころの傷」の改善に、専門性の高い相談員を配したこころのケア相談窓口を設置した。相談窓口を担当する相談員は上智大学グリーンケア研究所の人材養成講座で質の高い教育を受けた4人で、日常生活で活動時間帯に専用の携帯電話を持ち待機した。相談窓口案内リーフレットを救急隊員が現場で応急手当に関わった市民に配布しているが、有意な相談はまだない。案内リーフレットの配布枚数が、相対的に少ないことが原因と考えられるが、心肺蘇生やAED使用の成功例報道が、市民の応急手当に対する恐怖感、罪悪感などの軽減に作用し、こころのケアを必要とする市民は予想以上に少ないのかもしれない。さらに、配布地域を広げるなどで、より積極的な普及活動を進めることが望まれる。

### A. 研究目的

突発した交通事故や心肺停止の傷病者に遭遇した市民が、救助者として応急手当を行ったために、専門的な「こころのケア」が必要なほどに、深いこころの傷を残すことが少なくないと推定される。特に、心肺蘇生やAEDでの除細動に関わった場合、傷病者が死亡した事を知った場合、あるいは傷病者や医療関係者から労いや感謝の言動が無かった場合などには、その重症化しやすいと考えられている<sup>1,2)</sup>。本研究では、このような市民に対して、専門的な「こころのケア」を提供できる全国規模の常設システムを試験的に設置し、運用上の問題点を掘り下げ、こころの傷の特性と対処法を明らかにして、効果的なシステム構築に向けた政策を提言することを目的としている。

初年度（H21年度）には、聖トーマス大学グリーンケア研究所の高木慶子所長と本システムの在り方、組織、機能および人員配置などシステム設置の準備を進めたていたが、聖トーマス大学が上智大学に移管されると言う突発的な事態が発生した。これに伴いグリーンケア研究所も上智大学に移管され、本研究の遂行は上智大学の承認が必要となり、手続きと審査のために研究の推進は著しく停滞せざるを得なくなった。次年度には、この移管

業務に携わっていた研究員（相談員の中心人物）が体調不良に陥ると言うアクシデントがあり、研究所機能の停滞と相まって本研究の遂行が著しく遅滞したが、年度末に漸く活動が再開できる状態となった。

### B. 研究の方法

#### 1) 相談員の確保

グリーンケア研究所の研究員2名が相談員となることでシステム構築を進めていたが、この研究員が共に退職したため、改めて相談員探しとなり、H23年2月末にグリーンケア研究所人材養成講座の2年間研修コースが満了することから、このコース修了者から相談員を募集することとした。幸い4名の応募があり相談員として採用を決定した（資料1）。この研修コースでは資料2に示すように座学だけでなく、実習も取り入れたハイレベルの研修であり、本研究の相談員として採用した4名は看護師、臨床心理士などの基礎教育を受け職業人として現場経験があることから、本研究の相談員として適切と判断した。

#### 2) 「こころのケア」システム構築

a) システムの全体像：先行研究で提案されたシステムをベースとして、相談内容の秘匿をより厳格にするため、医学的な内容の相談へ

のバックアップを研究班医師に限定することとした（図1）。

b)相談窓口：携帯電話機の性能上、電話転送は1台のみに可能であるため、2台をペアとし4名の相談員には1台づつ携帯電話を配備した。そこで、応急手当に関わった市民への配布する案内リーフレットは、相談窓口へのアクセス電話番号を2つ記載したものに更新した（図2）。

c)相談受け入れ時間：相談員は、日常生活と並行して相談の依頼電話を受ける体制としたため、相談受付時間は相談員個々の活動時間帯（約12時間）に設定した。

d)案内リーフレットの配布：案内リーフレットは、救急現場で傷病者の応急手当に参加した市民に、現場に到着した救急隊員が労をねぎらいつつ手渡すと言う配布方法を採用した。これは、相談窓口に冷やかし電話、いたずら電話が多く掛ってくる可能性が高いことから、この研究が想定している依頼者へ真っすぐ届くことを期待した方式であった。この方式は大阪府豊中市消防に依頼し（図3）、続いて兵庫県尼崎市消防でも採用された。

しかし、いたずら電話が無いことから、「こころのケア」システムの存在を広く市民に知ってもらうことも重要であると考え配布範囲の拡大策を取り入れた。即ち、研究支援を表明してくれた大和郡山市消防においては、心肺蘇生講習会に参加した市民にも配布することとした。

e)相談の受け方：4名の相談員は日替わりでのローテーションを組み（図4）、対応に当たった。原則として1回の相談時間は15分程度とすること、相談内容などに聞き取り漏れを無くすために聞き取り用紙を予め作成しておくこととした（図5）。特に、だらだらと長時間相談される事態への対応法、繰り返し電話を掛けて来る依頼者への回避を含めた対応法、医学的な問題を持ち出された場合の対応法などについて、4名の相談員で検討し手順を申し合わせた。

## C. 結果

リーフレットは大阪府豊中市消防には2000枚、兵庫県尼崎市消防にも2000枚、そして大和郡山市消防にも2000枚を配布した。H23年3月末の時点で市民からの有意な相談依頼は寄せられていない。

## D. 考察

市民の「こころのケア」相談に応じる4名は、グリーンケア研究所が主催する人材養成講座の2年間研修コースを修了した。人材養成講座は基礎コース（18単位）、ボランティア養成コース（24単位）、および専門コース（34単位）からなり、合計76単位（80分講義×15～16回で2単位）の取得を必須としている。基礎コースは座学が中心であるが、他の2コースでは演習や実習が豊富に準備されており、かなり質の高い教育が密度濃くなされている（資料2）。なお、4名のバックグラウンドは臨床心理士2名、看護師1名、臨床カウンセラー1名であり、いずれも専門性と実績を既に積んでおり、市民の「こころのケア」相談には適しており、市民の相談には十分に応え得ると判断した。

市民へのリーフレット配布数は、まだ相対的に少なく、相談件数が伸びないことには十分に理解できる。しかし、一方では、市民が心肺蘇生、AED使用の必要性、さらには広く応急手当を行うべきことについては、最近、日本赤十字社、消防救急組織を初め多くの団体の講習や情宣活動で広く認識されてきた。特に、リーフレットを配布している消防機関が管轄する地域では、心肺蘇生講習が積極的に行われている。このため、市民が心肺蘇生、AEDで除細動を実施することの重要性、そして応急手当は緊急避難とし行うのであり責任を問われる行為ではないことが理解されていて、「自分の行った応急手当が傷病者を悪化させたのではないか？」などの恐怖心や自責の念が払拭されつつあるのかもしれない。

最終年度には、リーフレットの配布地域を拡大し、配布枚数を増やすこと、こころの傷

を残した市民へ、我々の相談システムの存在が届くような活動を企画することが強く望まれる。また、心肺蘇生講習があまり活発に行われていない地域へ、新しい心肺蘇生ガイドライン 2010 の普及活動と共に働きかけることが必要と考えられる。

#### E. 結論

心肺蘇生等の現場で応急手当に関わった市民のこころの傷を緩和することを目的に、専門性の高い相談員を配した「こころのケア相談窓口」を設置した。有意な相談はまだないが、リーフレットの配布件数を増加させ市民の相談を待つこととした。しかし、最近では心肺蘇生や AED 使用の成功例の報道が相次ぎ、市民の応急手当に対する恐怖感や罪悪感を軽減する効果をもたらし、こころのケアを必要とする市民は予想以上に少ないのかもしれない。さらに、配布地域を広げることや、市民の意識調査などが望まれる。

#### F. 健康危機情報

特になし。

#### G. 研究発表

なし。

#### H. 知的財産権の出願・登録状況

特になし。

#### 文献

1) 救急蘇生等の救助者に対する「こころのケア」に関する研究。平成 21 年度厚生労働科学研究費補助金事業 循環器疾患等生活習慣疾病対策総合研究事業「循環器疾患等の救命率向上に資する効果的な救急蘇生法の普及啓発に関する研究」(H21-心筋-一般-001)  
[http://kouroukaken-kyukyusosei.info/wpm/archivepdf/21/2\\_1.pdf](http://kouroukaken-kyukyusosei.info/wpm/archivepdf/21/2_1.pdf)

2) AED の使用者、非使用者のこころのケアにかかわる研究。平成 18~20 年度厚生労働科学研究費補助金事業 循環器疾患等生活習慣疾病対策総合研究事業「自動体外式除細動器(AED)を用いた心疾患の救命率向上のための体制の構築に関する研究」(H18-心筋-001)  
[http://kouroukaken-kyukyusosei.info/wpm/archivepdf/18-20/2\\_13.pdf](http://kouroukaken-kyukyusosei.info/wpm/archivepdf/18-20/2_13.pdf)

図 1、システム図（修正）

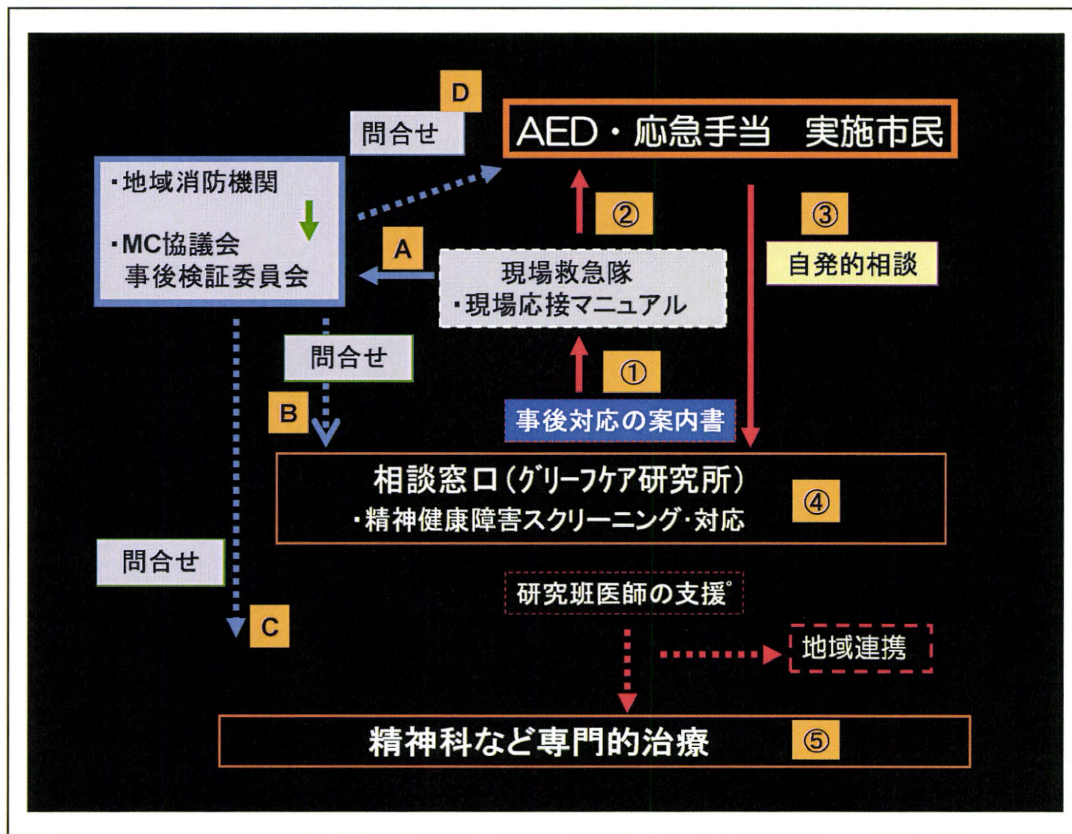


図 2、配布リーフレット

## あなたの勇気ある行動を称えます



日野原 巨明  
聖路加国際病院 理事長・  
名誉院長、  
上智大学グリーンケア研究所  
名誉所長

人命救助のために手を差し伸べた、あなたの勇気ある行動を称えます。傷病者の方も、あなたの素晴らしい行為をきっと感謝されていると思います。救急隊は言葉少なく、また慌ただしく引き上げたことと思いますが、救命を最優先に行動していますので、ご理解下さい。

傷病者の方と救急隊に代わって感謝いたします。

ありがとうございました。

ところで、緊迫した状況で馴れない手当てをなさって、さぞかし緊張されていると思います。また、手当てが正しかったか、不備があって病状が悪くなったのではないかと心配されることと思います。しかし、**あなたは出来る事を精一杯なさったのですし、傷病者の方は救急隊に守られて病院へ緊急搬送されましたので、これ以上のご心配は不要かと思えます。**

人命救助に携った人の中には、この緊張と不安が続き胸がドキドキしたり、思い出して苦しくなることがあります。もし、そのような状況になった場合は、一人で悩まずに「**ストレスを解消する有効な方法**」を試してください。

- 1) 家族に頑張ったことを聞いてもらう。
- 2) 友人や同僚に経験したことを聞いてもらう。
- 3) 外食や旅行で気分転換する。
- 4) お気に入りの趣味に没頭する。  
(カラオケ、音楽鑑賞、コンサート、スポーツなど)
- 5) 家族や友人と楽しい会食をする。

(人命救助の経験者へのアンケート調査で役立ったと回答した主な方法から抜粋、特別非営利活動法人日本ファーストエイドソサエティ 岡野谷純先生の報告より)

それでも状況が治まらない時は、遠慮せずに**相談窓口**に連絡してください。

電話番号 090-1020-1178  
090-1020-0347  
(時間帯によっては繋がらないことがあります。)

上智大学グリーンケア研究所  
(兵庫県尼崎市若王寺2-18-1)

図 3、大阪府豊中市消防への依頼状

平成 23 年 3 月 7 日

豊中市消防本部  
救急課  
米沢隆宏 様

厚生労働科学研究費補助金研究  
「心肺蘇生等の救助者に対する「こころのケア」に関わる研究」  
について（依頼）

当研究班では、平成 21 年 4 月より標記の研究を進めております。  
この研究は表題のとおり、心肺蘇生等の救助者に生じる「こころの負担」の軽減、  
解消を目的に、当該市民に対して専門の相談員が電話対応し、必要なアドバイスを  
提供するシステム構築を最終目標としています。

つきましては、基礎的なデータ集積にあたり、貴消防本部のご協力をお願いす  
る次第であります。お願いする内容は、救急現場で心肺蘇生等の救助活動に関わ  
った市民に、当システムの案内パンフレットを配布して頂くことです。  
本研究事業に関わる責任は全て当研究班にあり、ご迷惑をお掛けすることのない  
よう最大の配慮を致します。

なお、研究期間は来年 3 月末を一応の目途としておりますが、ニーズが高け  
れば延長しお願いする可能性もあり得ます。

ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

平成 22 年度厚生労働科学研究費補助金  
（循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業）  
「循環器疾患・糖尿病等の救命率向上に資する効果的な救急蘇生法の普及  
啓発に関する研究(H21- 心筋- 一般- 001)」  
研究代表者 丸川征四郎  
（医療法人医誠会 医誠会病院院長補佐）

図 4、相談員の担当表 (H23 年 3 月の例)

General Holiday 17th (Ireland)							MARCH 2011							Holyday of Obligation 17th (Ireland)							
SUNDAY	MONDAY	TUESDAY	WEDNESDAY	THURSDAY	FRIDAY	SATURDAY	SUNDAY	MONDAY	TUESDAY	WEDNESDAY	THURSDAY	FRIDAY	SATURDAY	SUNDAY	MONDAY	TUESDAY	WEDNESDAY	THURSDAY	FRIDAY	SATURDAY	
6 5th Sunday of the Year	7 St. Patrick St. Felicity	1 St. David - Patron Saint of Wales	2 Of the day	3 Of the day	4 St. Casimir First Friday	5 Ireland - St. Colum	13 1st Sunday of Lent	14 ① 長瀬 ② 五島	15	16	17	18	19	20 →	21 ① 長瀬 ② 五島	22	23	24	25	26	
27	28	29	30	31																	

- ① 長瀬 09010201178 → 転送 五島 09056469161  
 ② 五島 09010200347 → 転送 中井 090-5165-8335

General Holiday 22nd (U.K. & Ireland)							APRIL 2011							Bank Holiday 22nd (Scotland)							General Holiday 22th (U.K. & Ireland)						
SUNDAY	MONDAY	TUESDAY	WEDNESDAY	THURSDAY	FRIDAY	SATURDAY	SUNDAY	MONDAY	TUESDAY	WEDNESDAY	THURSDAY	FRIDAY	SATURDAY	SUNDAY	MONDAY	TUESDAY	WEDNESDAY	THURSDAY	FRIDAY	SATURDAY							
3 4th Sunday of Lent Mother's Day	4 St. Patrick	5 St. Vincent Ferrer	6 Of the day	7 St. John Baptist de La Salle	1 First Friday	2 Of the day	10 5th Sunday of Lent	11 St. Stanislaus of Koscio	12 Of the day	13 St. Martin I. Pope	14 Of the day	15 Of the day	16 St. Bernadette	17 Paschal Sunday	18 St. Lazarus - Ireland	19 Of the day	20 Wales - St. David	21 Holy Thursday	22 Good Friday Fast and Abstinence	23 Easter Vigil	24 Easter Sunday	25 St. Mark	26 Of the day	27 Of the day	28 St. Peter Chanel St. Louis Garneau de Montfort	29 St. Catherine of Siena	30 St. Pius V. Pope



図 5、聞き取りフォーマット

人 命 救 助 関 係	
電 話 相 談 票 No.	
日 時	年 月 日 ( ) 時 分 ~ 時 分 ( ) 分間
相談番号又はニックネーム	(男・女・その他) 年代 ( )
該当者	人命救助者本人 本人以外 (関係 )
救助地	県 市 ( 付近)
救助日時	年 月 日 (時刻: 午前・午後 時 ごろ)
救助状況	
主 訴	・電話をかけてきた人の思い
	・被救助者への思い
	・その他
その他	
傾聴受容	
情報提供	
相手の感じ (様子や雰囲気、声の高さ、大きさ、張り等)	
担当者が感じたこと	
情報源	リーフレット・その他 ( )
担当者 ( )	上智大学グリーンケア研究所



## 資料 1 - 1

相談員依頼に関わるグリーンケア研究所との打ち合わせ  
：基本合意事項の確認

会議：高木慶子（グリーンケア研究所所長）、丸川征四郎（厚労科研丸川班代表）

日時：H23年2月18日

場所：聖トーマス大学グリーンケア研究所

- ・相談員：グリーンケア研究所人材養成講座の2年間研修コースの修了者（H23年2月末）、および専門コース（Bコース）の在席者を主な対象として募集する。
- ・相談員候補者が決まれば丸川班からの依頼説明会を開催する。
- ・相談員への依頼は丸川班が応募者に直接行う。
- ・相談員の活動について
  - 携帯電話機を提供（研究が終了すれば返却）する
  - 相談員としての活動は予め担当者表を作成し曜日や時間帯を定める
  - 相談様式は予め定めておく（相談の時間制限、聞き取り用紙作成、いたづら電話や病的相談への対応法）
  - 相談内容を記録し、担当実績と共に文章で丸川班に報告する
  - 活動開始後に必要に応じて丸川班と意見交換会を開催する
  - 必要であれば携帯電話を増設する
  - 相談員へは実績に応じて規定の範囲で日当等（あるいは謝礼）を支給する
- ・相談内容の解析等は丸川班で行う
- ・2月中に組織を立ち上げ、可及的速やかに活動を開始する
- ・「こころのケア」相談案内リーフレットは、研究に参同する消防があれば配布地域を拡大する

## 資料 1 - 2

相談員候補者との打ち合わせ

：依頼内容説明と受諾確認

日時：H23. 2. 24 16:00～17:00

場所：大阪梅田 ホテルグランヴィア

参加者：候補者（五島さん、長瀬さん、立石さん、中井さん）、丸川

説明内容：

1) 「こころのケア」システムおよび依頼内容の説明

2) 相談受け時間・内容

- ・パンフレットには相談受け時間帯、一件当たりの相談時間は記載していないので、相談員の都合で決めてよい。
- ・相談受け時、最初に相談時間を明言し、話の途中であっても時間がくれば終了するなどメリハリを付ける（例：決まり事ですので、これで終了とします、など）。
- ・相談で聞き取る項目は相談員に一任するが、依頼者が救急手当てに参加した日時、場所は必ず聴取する（後日、検証する場合に不可欠）。もし、日時、場所を明言しない場合は相談に応じないでよい。
- ・いたずら電話対応については、一方的に電話を切ってよい。
- ・相談内容から精神的な病気と考えられる重症者対応については、心療内科・精神科クリニック受診を勧める。問題が解決しない事例については、丸川班で対応する。

3) 相談受け体制

- ・携帯電話 2 台をペアとし、4 台で適宜、交代して担当する。
- ・予めの担当予定表と、事後の担当実績を丸川班に適時報告する。
- ・相談内容、対応実績については、その要旨を文章で丸川班に適時報告する。

4) 経費

- ・電話使用料、故障修理等の経費は丸川班で負担する。
- ・実績に応じた謝金を厚労省権学研究費規定に従って支給する。

5) 代表者

### 資料 1-3

こころのケア 電話相談にかかる取り決め

## こころのケア 電話相談にかかる取り決め

### 【提出物】

勤務予定表	1 カ月分の予定表を当該月の前月末に事務局へ提出 (変更があった場合は、実績表を提出の際に変更箇所をお知らせください。)	メール連絡可
勤務実績表 (出務整理簿)	1 カ月分を当該月の翌月の 10 日までに事務局へ提出	郵送
謝金受領書		
電話相談の記録	1 カ月分をとりまとめて事務局へ提出	メール連絡可

○謝金の支払・・・当該月の翌月末に指定の銀行口座に振込

【謝金の単価】 厚生科研の規程により 1 日 (8 時間) 7, 8 0 0 円、1 時間あたり 9 7 0 円とし、総支給額の 10% の額を源泉徴収

【勤務時間】 月～金曜日 9 時～17 時 (電話当番 1 名)

【郵送先】 〒532-0011

大阪市淀川区西中島 3-18-9 新大阪日大ビル 8 F

医療法人医誠会本部

厚生科研丸川班事務局

グリーフケア研究所人材養成講座のカリキュラム単位表 (2011年度版)

2011年度 グリーフケア研究所人材養成講座 カリキュラム		2010/7/9現在	
科目名	講師	必修	選択
グリーフケア基礎コース			
グリーフケア論 I	高木慶子	2	
スピリチュアルケア論	小西達也	2	
死生学	松本・山折・申・打本・大河内	2	
臨床心理学	倉戸ヨシヤ	2	
悲嘆について学ぶ I	オムニバス		1
悲嘆について学ぶ II	オムニバス		1
グリーフケア援助演習 I	大河内・橋本・岡下	2	
グリーフケア援助演習 II	倉戸ヨシヤ・倉戸由紀子	2	
グリーフケア援助演習 III	倉戸ヨシヤ・倉戸由紀子	2	
グリーフケア演習(ゼミ) I	小西・伊藤・倉戸・山本	2	
修了レポート(基礎)	小西・伊藤・倉戸・山本	2	
(必修単位数)			18
			概要(授業の目的)
			グリーフケアに関する基礎的な理論や研究について概観し、臨床事例を参考にしつつ、援助方法論を学ぶ。また、MBTIによる性格タイプを学び、自己理解に補する。
			スピリチュアルケアに関する国内の諸研究を概観し、臨床事例を参考にしつつ、援助方法論を学ぶ。また、MBTIによる性格タイプを学び、自己理解に補する。
			ホスピス・緩和ケアのチャプレン経験者から、臨床経験に基づいてカトリック、プロテスタント、仏教の死生観を学び、これらを参考にし、自分自身の死生観を自覚化・言語化する。
			臨床心理学に関する基本的な理論や研究について概観し、対人援助職に求められる臨床心理学的対人理解と受容的態度、及び倫理について学ぶ。
			愛する家族や親しい友人を亡くした人々の悲しみと苦しみ、すなわち『悲嘆』についての理解を深めるために、グリーフケアおよびスピリチュアルケアの専門家の講義を聴く。JR西日本財団寄付講座。
			愛する家族や親しい友人を亡くした人々の悲しみと苦しみ、すなわち『悲嘆』についての理解を深めるために、グリーフケアおよびスピリチュアルケアの専門家の講義を聴く。JR西日本財団寄付講座。
			傾聴、自己開示、フィードバック、感情の言語化のグループワークを通して、対人援助現場で浮かび上がる自分のパターンに気づき、自然なコミュニケーションのあり方を身につける。
			心理臨床の立場から喪の作業(グリーフワーク)の理論と倫理について学ぶ。技法としては、イメージ法、エンブティチャエア、物語を取り上げる。
			喪の作業(グリーフワーク)の理論に基づいて、グリーフワークの実験を体験する。この体験によって自己洞察を深めることを目的とする。
			グリーフケアに関わる人材としての自身の適正、素質、進路をテーマとして自己理解を深める。修了レポートの指導もこの時間に行う。3クラスに分かれる。
			基礎コースで知的、ならびに体験的に学んだ成果を踏まえて、自分自身の将来の展望についてまとめる。ゼミで担当者の指導を受け

グリーフケアボランティア養成コース(A/B)

科目名	講師	必修	選択	概要(授業の目的)
グリーフケア論Ⅱ	金子・村上・黒田・打本	2		グリーフケアに関わる人材の社会的役割と意義、医療福祉施設及び教育機関や公的機関での役割とチームアプローチ、災害時の対応などについて学ぶ。
精神医学・心身医学	溝部・村上	2		精神医学及び心身医学に関する基礎知識を習得し、病的悲嘆を抱えたケースについて、事例を参考にしつつアセスメントと対応方法について学ぶ。
臨床倫理学	林	2		グリーフケア及びスピリチュアルケアの専門職は臨床において、倫理的諸問題に直接・間接に関与することが珍しくない。生命倫理、医療倫理、人権など臨床における倫理について事例を通して検討する。
ボランティア論	オムニバス	2		ボランティア活動をする上での心得と倫理、ボランティアの社会的意義、活動事例について学ぶ。また、社会心理学の視点からリーダーシップ、コンフリクトマネジメント、グループダイナミクスについて学ぶ。
NPO論	山口洋典・川中大輔	1		NPOに関する法制度、具体的な設立方法。NPOの社会的意義、活動事例について学ぶ。コース修了後にグリーフケアの場を提供するための組織を作るために役立てほしい。
グリーフケア援助演習Ⅳ	高木・倉戸(ヨ)・倉戸(由)	2		臨床実習Ⅰの準備として、人間関係セミナーと個人面談を通して、サポートグループのファシリテーションを体験的に学ぶ。なお、ゼミⅡと有機的に連携しており、ゼミⅡと同じ3クラスに分かれる。
グリーフケア援助演習Ⅴ	高木・大河内・橋本	A4		自助グループのファシリテーションや構成的ワークショップなど、グリーフケアの様々な技法について基礎理論を学び、臨床実習Ⅰのスーパービジョンとして振り返りのグループワークと個人面談を行う。
スピリチュアルケア援助演習Ⅰ	伊藤・打本・申・岡下	B4		各自の臨床実習Ⅰにおける経験を素材として、集中臨床実習と同様に臨床スピリチュアルケア研修を行う。人間関係セミナー、個人スーパービジョン、自己評価セッションなどを実施する。
集中臨床実習Ⅰ	小西 計6名	B2		臨床牧会教育(CPE)に準拠した臨床スピリチュアルケア研修において、スピリチュアルケア援助者の基本的な姿勢と援助技術を、病院臨床における実習を素材として学ぶ。夏期休暇中、50時間(1週間)の集中実習。
臨床実習Ⅰ	高木慶子・小西達也	4		グリーフケアもしくはスピリチュアルケアの臨床実習を、週4時間×23週=92時間実施する。スーパービジョンはAコースはグリーフケア援助演習Ⅴ、Bコースはスピリチュアルケア援助演習Ⅰで行う。
グリーフケア演習(ゼミⅡ)	倉戸(ヨ)・倉戸(由)・小西	1		人間関係セミナーと個人面談を通して、グリーフケアに関わる人材としての自身の適正、素質、進路についての自己理解を深める。グリーフケア援助演習Ⅳと同じ3クラスに分かれる。
グリーフケア演習(ゼミⅢ)	小西・山本・伊藤・黒田	2		文献研究を併行しながら研究テーマを設定して発表し、討議する。修了レポートの指導もこの時間に行う。2クラスに分かれる。
修了レポート(ボランティア)	小西・山本・伊藤・黒田	2		ボランティア養成コースで知的・体験的に学んだ成果、及び自分自身の将来の展望を踏まえて、研究テーマを設定する。ゼミで担当者の指導を受ける。
(必要単位数)		24/26		Aコースは24単位、Bコースは26単位

専門コース	科目名	講師	必修	選択	概要(授業の目的)
	グリーフケア援助演習VI	小西達也・山本佳世子	4		サポートグループのファシリテーションや構成的ワークショッパなど、グリーフケアの様々な技法について基礎理論を学び、臨地実習Ⅱのスーパービジョンとして振り返りのグループワークと個人面談を行う。
	グリーフケア援助演習VII (グリーフケア論Ⅲ?)	小西・黒川・山本・伊藤	4		死別と悲嘆に関する幅広い知識や情報を提供し、死別という体験に対する洞察を深めることを目的とし、基礎知識から最新の動向までを体系的に学ぶ。
	スピリチュアルケア援助演習Ⅱ	小西・山本・大河内・申	4		各自の臨地実習Ⅱにおける経験を素材として、臨床スピリチュアルケア研修を行う。人間関係セミナー、個人スーパービジョン、自己評価セッションなどを実施する。
	スピリチュアルケア援助演習Ⅲ	小西達也・山本佳世子	4		スピリチュアルケア援助演習Ⅰにおける、臨床スピリチュアルケア研修におけるグループダイナミズムを観察する。ここでの経験及び臨地実習Ⅱでの経験を素材として、人間関係セミナー、個人スーパービジョンを実施する。
	集中臨地実習Ⅱ	伊藤高章ほか計6名	2		臨床牧会教育(CPE)に準拠した臨床スピリチュアルケア研修において、スピリチュアルケア援助者の基本的な姿勢と援助技術を、病院臨床における実習を素材として学ぶ。夏期休暇中、50時間(1週間)の集中実習。
	臨地実習Ⅱ	高木慶子・小西達也	12		グリーフケアおよびスピリチュアルケアの臨地実習を、週6時間×45週=270時間実施する。スーパービジョンはグリーフケア援助演習Ⅴ・Ⅵおよびスピリチュアルケア援助演習Ⅱ・Ⅲで行う。
	グリーフケア演習(ゼミ)Ⅳ	小西・山本	2		事例研究として、グリーフケアまたはスピリチュアルケアにおける研究と臨床実践との統合を、理論や臨床事例をもとに考究する。修了レポートの指導もこの時間に行う。
	修了レポート(専門)	小西・山本・高木	2		臨地実習での臨床実践と、文献購読、ゼミでの指導に基づいて、グリーフケアまたはスピリチュアルケアの事例研究を進める。
	(必要単位数)		34		



## 資料2-2

人材養成講座の講義日程表、カレンダー表示

前期日程	曜日	講義開始時間		後期日程	曜日	講義開始時間	NPO論
4月10日	土	9:30~		10月6日	水	18:00~	
4月14日	水	18:00~		10月9日	土	9:30~	
4月21日	水	18:00~		10月13日	水	18:00~	
4月24日	土	9:30~		10月20日	水	18:00~	
4月28日	水	18:00~		10月23日	土	9:30~	
5月8日	土	9:30~		10月27日	水	18:00~	
5月12日	水	18:00~		11月10日	水	18:00~	
5月19日	水	18:00~		11月13日	土	9:30~	
5月22日	土	9:30~		11月17日	水	18:00~	
5月26日	水	18:00~		11月24日	水	18:00~	
6月2日	水	18:00~		11月27日	土	9:30~	※
6月9日	水	18:00~		12月1日	水	18:00~	
6月12日	土	9:30~		12月4日	土	9:30~	※
6月16日	水	18:00~		12月8日	水	18:00~	
6月23日	水	18:00~		12月15日	水	18:00~	
6月26日	土	9:30~		12月18日	土	9:30~	
6月30日	水	18:00~		12月22日	水	18:00~	
7月3日	土	9:30~		1月8日	土	9:30~	※
7月7日	水	18:00~		1月12日	水	18:00~	
7月14日	水	18:00~		1月19日	水	18:00~	
7月21日	水	18:00~		1月22日	土	9:30~	
7月24日	土	9:30~		1月26日	水	18:00~	
7月28日	水	18:00~		2月2日	水	18:00~	
集中臨地実習:8月1日~7日・8月29日~9月4日(いずれかの1週間)							

2011 年 4 月						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6 講座 水① (基・ホ)	7	8 公開講座①	9 講座 土① (基・ホ・専)
10	11 講座 月① (専)	12	13 講座 水② (基・ホ)	14	15 公開講座②	16
17	18 講座 月② (専)	19	20 講座 水③ (基・ホ)	21	22 公開講座③	23 講座 土② (基・ホ・専)
24	25 温悼慰霊 の日	26	27 講座 水④ (基・ホ)	28	29 昭和の日	30

2011 年 7 月						
日	月	火	水	木	金	土
					1 公開講座⑫	2
3	4 講座 月⑫ (専)	5	6 講座 水⑬ (基・ホ)	7	8 公開講座⑬	9 講座 土⑦ (基・ホ・専)
10	11 講座 月⑬ (専)	12	13 講座 水⑭ (基・ホ)	14	15 公開講座⑭	16
17	18 講座 月⑭ (専)	19	20 講座 水⑮ (基・ホ)	21	22 公開講座⑮	23 講座 土⑧ (基・ホ・専)
24	25 講座 月⑮ (専)	26	27	28	29	30
31						

2011 年 5 月						
日	月	火	水	木	金	土
1	2 講座 月③ (専)	3 憲法記念日	4 みどりの日	5 こどもの日	6 公開講座④	7
8	9 講座 月④ (専)	10	11 講座 水⑤ (基・ホ)	12	13 公開講座⑤	14 講座 土③ (基・ホ・専)
15	16 講座 月⑤ (専)	17	18 講座 水⑥ (基・ホ)	19	20 公開講座⑥	21
22	23 講座 月⑥ (専)	24	25 講座 水⑦ (基・ホ)	26	27 公開講座⑦	28 講座 土④ (基・ホ・専)
29	30 講座 月⑦ (専)	31				

2011 年 8 月						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

2011 年 6 月						
日	月	火	水	木	金	土
			1 講座 水⑧ (基・ホ)	2	3 公開講座⑧	4
5	6 講座 月⑧ (専)	7	8 講座 水⑨ (基・ホ)	9	10 公開講座⑨	11 講座 土⑤ (基・ホ・専)
12	13 講座 月⑨ (専)	14	15 講座 水⑩ (基・ホ)	16	17 公開講座⑩	18
19	20 講座 月⑩ (専)	21	22 講座 水⑪ (基・ホ)	23	24 公開講座⑪	25 講座 土⑥ (基・ホ・専)
26	27 講座 月⑪ (専)	28	29 講座 水⑫ (基・ホ)	30		

2011 年 9 月						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19 敬老の日	20	21	22	23 秋分の日	24
25	26	27	28	29	30	

2011年 10月							2012年 1月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
						1	1	2	3	4	5	6	7
2	3 講座 月① (専)	4	5 講座 水① (基・ポ)	6	7 公開講座①	8 講座 土① (基・ポ・専)	8	9 成人の日	10	11 講座 水①① (基・ポ)	12	13 公開講座①①	14 講座 土⑥ (基・ポ・専)
9	10 体育の日	11	12 講座 水② (基・ポ)	13	14 公開講座②	15	15	16 講座 月①② (専)	17	18 講座 水①② (基・ポ)	19	20 公開講座②②	21
16	17 講座 月② (専)	18	19 講座 水③ (基・ポ)	20	21 公開講座③	22 講座 土② (基・ポ・専)	22	23 講座 月③ (専)	24	25 講座 水③ (基・ポ)	26	27 公開講座③③	28 講座 土⑦ (基・ポ・専)
23	24 講座 月③ (専)	25	26 講座 水④ (基・ポ)	27	28 公開講座④	29	29	30 講座 月④ (専)	31				
30	31 講座 月④ (専)												
2011年 11月							2012年 2月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
		1 大学創立記念日	2 先哲祭	3 文化の日	4	5				1 講座 水④ (基・ポ)	2	3 公開講座④	4 講座 土⑧ (基・ポ・専)
6	7 講座 月⑤ (専)	8	9 講座 水⑤ (基・ポ)	10	11 公開講座⑤	12 講座 土③ (基・ポ・専)	5	6 講座 月⑤ (専)	7	8 講座 水⑤ (基・ポ)	9	10 公開講座⑤	11 予備日 (遠征面接)
13	14 講座 月⑥ (専)	15	16 講座 水⑥ (基・ポ)	17	18 公開講座⑥	19	12	13	14	15	16	17	18
20	21 講座 月⑦ (専)	22	23 勤労感謝の日	24	25 公開講座⑦	26 講座 土④ (基・ポ・専)	19	20	21	22	23	24	25 修了式
27	28 講座 月⑧ (専)	29	30 講座 水⑦ (基・ポ)				26	27	28	29			
2011年 12月							2012年 3月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
				1	2 公開講座⑧	3 ザビエル祭					1	2	3
4	5 講座 月⑨ (専)	6	7 講座 水⑧ (基・ポ)	8	9 公開講座⑨	10 講座 土⑤ (基・ポ・専)	4	5	6	7	8	9	10
11	12 講座 月⑩ (専)	13	14 講座 水⑨ (基・ポ)	15	16 公開講座⑩	17	11	12	13	14	15	16	17
18	19 講座 月⑪ (専)	20	21 講座 水⑩ (基・ポ)	22	23 天皇誕生日	24	18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31	25	26	27	28	29	30	31

平成 22 年度厚生労働科学研究費補助金  
循環器疾患・糖尿病等生活習慣疾病対策総合研究事業  
循環器疾患等の救命率向上に資する効果的な救急蘇生法の普及啓発に関する研究  
(H21-心筋-一般-001)  
(研究代表者 丸川征四郎)

平成 22 年度研究報告

分担研究報告

救急蘇生法の普及啓発に有用な教育ツールと教育研修プログラムの開発  
(学童への蘇生教育の在り方の検討)

研究分担者 長谷 敦子

長崎大学病院 救命救急センター 准教授

平成 23(2011)年 3 月